

第1848号
令和6年10月15日発行
最高裁判所
事務総局
(毎月1日・15日発行)

裁判所時報

(目次)

◎記事	1
●人事異動（9月22日～10月1日）	
◎裁判所だより	2
●「織田家ゆかりの城下町 柏原（かいばら）」 (神戸地方・家庭裁判所柏原支部、柏原簡易裁判所)	
◎政令	3
●大麻取締法及び麻薬及び向精神薬取締法の一部を改正する法律の施行期日を定める政令	



記事

◎人事異動

青森地方・家庭裁判所判事補
東京地方・家庭裁判所判事補 三塚祐太郎
(9月22日)

東京高等裁判所判事
事務総局民事局参事官 橋爪 信

事務総局民事局付
横浜地方裁判所判事 谷藤一弥
(以上9月24日)

東京高等裁判所判事
水戸地方裁判所長 福井章代

水戸地方裁判所長
司法研修所教官 河本雅也

司法研修所教官
千葉地方裁判所判事 守下 実

千葉地方裁判所判事
東京高等裁判所判事 浅香竜太
(以上9月25日)

定年退官
東京高等裁判所判事 三浦 透
(9月26日)

水戸地方・家庭裁判所判事補
東京家庭裁判所判事補 君塚知弥子

福岡地方・家庭裁判所判事補
広島家庭・地方裁判所呉支部判事補 西木文香

浦河簡易裁判所判事兼静内簡易裁判所判
事
大阪簡易裁判所判事 吉村勝彦
(以上10月1日)

◎裁判所だより

「織田家ゆかりの城下町 柏原（かいばら）」 (神戸地方・家庭裁判所柏原支部、柏原簡易裁判所)

兵庫県丹波市は、兵庫県の中央東部に位置し、阪神都市圏から電車や車で約1時間30分から2時間圏域にあり、北東は京都府に接しています。このため、丹波市内の南部地域は阪神都市圏との関わりが比較的深く、一方、北部地域は隣接する京都府等との関わりが比較的深くなっています。

丹波市の気候は、年間の寒暖差、昼夜間の温度差が大きく、秋から冬にかけて発生する丹波地域の山々を包む朝霧、夕霧は「丹波霧」と呼ばれ、丹波地域の豊かな自然環境に一層の深みと神秘さを醸し出しています。この地域特有の寒暖差のある栽培風土に育まれた丹波栗や丹波大納言小豆は古くから朝廷や幕府に献上され、今も全国に誇る「丹波」ブランドの農作物となっています。秋に地域各地で開催される丹波栗フェアや丹波大納言小豆せんざいフェアでは、生栗等の販売、栗や小豆を使用したスイーツの提供などが行われ、職員もこの時期を楽しみにしています。また、丹波市の南端に位置する篠山層群（約1億数千万年前の白亜紀前期の地層）では、平成18年8月、「丹波竜」と命名された竜脚類の新属新種恐竜化石が発見されました。



(写真は、柏原藩陣屋跡)

神戸地方・家庭裁判所柏原支部、柏原簡易裁判所庁舎のある丹波市柏原町は、織田信長の子孫が治めた町で、庁舎は柏原藩家老屋敷跡に建っています。豊臣秀吉の時代、慶長3年（1598年）、織田信長の実弟信包（のぶかね）が伊勢の安濃津から柏原へ国替えとなり、柏原は城下町として地域の中心的役割を果たしました。三代目信勝に世継がなく断絶した後、45年

間幕府の直轄地となりましたが、元禄8年（1695年）、織田信長直系の信休が大和国宇陀郡松山藩から丹波柏原藩2万石へ転封となり、以後幕末まで織田家領主時代は続き、柏原は地域の行政、経済、文化の中心地として繁栄しました。裁判所の周辺には、柏原藩織田家の公邸であった陣屋跡や創建当時の姿を残す長屋門、太鼓やぐらなど城下町の風情を感じさせる歴史的建物が今も残っています。毎年10月には、「柏原藩織田まつり」が開催され、総勢100名余りの武者行列は往時を偲ばせ、多くの見物客で賑わいます。



(写真は、神戸地方・家庭裁判所柏原支部、柏原簡易裁判所庁舎)

令和4年3月に竣工した2階建ての新庁舎は、長屋門をイメージして建築され、周辺の雰囲気と調和しつつ、品格と重厚感の感じられる外観となっています。明るくなった庁舎で、地域の特性に根差し、より市民に身近で利用しやすい司法サービスの提供を心掛けていきます。

政

◎大麻取締法及び麻薬及び向精神薬取締法の一部を改正する法律の施行期日を定める政令

(令和六年九月一日公布 政令第二八二号)

内閣は、大麻取締法及び麻薬及び向精神薬取締法の一部を改正する法律（令和五年法律第八十四号）附則第一条の規定に基づき、この政令を制定する。大麻取締法及び麻薬及び向精神薬取締法の一部を改正する法律の施行期日は令和六年十二月十二日とし、同法附則第一条第二号に掲げる規定の施行期日は令和七年三月一日とする。

令